

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 嶽陽会	代表者	三浦 隆	法人・ 事業所 の特徴	事業所の特色として、法人で行っている①「通院等移送サービス」、②「配食サービス」、③「在宅介護者教育」、④「災害時避難所」、⑤「トータルケアサービス」、⑥「嘱託医や協力医療機関との連携」の6つの機能を小規模多機能のサービスと組み合わせ、利用者やその介護者に対してより重層的なサービスを提供できる体制を確保している。
事業所名	生活多機能支援ホーム パインの雫	管理者	横内 辰郎		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	2人	人	2人	1人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①地域ケア個別会議へ参加することができていない職員がまだ多くいるため、可能な限り参加してもらい、会議の内容や事業所が事例に対してどういった関りができるか？を考えてもらう。 ②事業所の自己評価について、異動間もない職員へ項目の意味や解釈などを説明し参加してもらう。	①地域ケア会議には今年度は参加できなかった。②自己評価についての意味や解釈を説明していたが、まだ十分に理解できていない職員がいたので、今後もしっかり説明し理解してもらう必要がある。	・困ったことがあれば西部包括へいつでも相談してください。 ・自己評価については難しいところやわからないところがあるかと思いますが、時間をかけて理解してもらえばよいかと思います。	①地域ケア個別会議には、参加できるかを西部包括へお願いしたり、困難事例がある際には積極的に相談していく。 ②事業所の自己評価に関しては、しっかり理解してもらえるように時間をかけて説明していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	①今後はコロナの扱いが第5類に移行することで、これまでより来所される方が増えると予想されるため、インターホンが鳴った際にはすぐに玄関へ駆けつけるようにする。	①インターホンが鳴った際は速やかに対応することができた。また、インターホンを押さずに入ってきた方に対しては、インターホンを押すようにと伝えた。	・日中、事業所に玄関には鍵はかかっているのか。（鍵はかかかっておらず、解放している。）	・今後も来所される方が増えてくると考えられるため、来所者に対しインターホンを押すように説明し周知させていく。
C. 事業所と地域のかかわり	①小学校の運動会を見学するなど、直接的な交流以外の方法で地域との交流を図っていく。 ②小規模事業所間の情報交換会を開催し、他事業所においてどのような取り組みを行っているかを知り、今後の活動の参考としていく。	①5月に岩木小学校の運動会の見学をし、地域との交流を図れた。 ②6/23と11/24に市内の小規模事業所が集まって情報交換を行った。6月には各事業所ではどのように登録者確保をしているか等を意見交換し、11月には介護職員が集まり活動内容やサービス内容の事例等の情報交換をし、今後の活動の参考となった。	・事業所は地域の方に知られているかがあまり分からない。もし、よろしければ、包括で年2回広報誌を岩木地区の町会すべてに配っているの、雫も広報誌を配っているのであれば、こちらでも協力して配ります。	①来年度も岩木小学校の運動会を見学を計画し、地域との交流を図っていく。 ②西部包括の協力のもと、広報誌を岩木地区の町内全体に配布してもらい、現在より広範囲に当事業所を知ってもらえるようにしていく。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>①通い利用者の気分転換が図れるような外出行事を計画し、可能であれば実施していく。 ②選挙の際、投票へ行きたいと希望する利用者への対応を行っていく。</p>	<p>①弘前公園（桜）、湯段（水芭蕉）、外食、猿賀公園、目屋ダム、カヌー大会見学、田舎館（田んぼアート）等、外出・ドライブを実施し、利用者の気分転換を図ることができた。 ②本人と家族から希望があり、岩木庁舎へ送迎援助した。</p>	<p>・まだまだコロナも終息する気配がないので、外出先で感染をしてしまう可能性はないわけではないので、家族に対しこれから外出する機会が多くなるのであれば、感染のリスクをあることを説明したほうがよいのではないかと。 ・出掛ける機会が増えれば、利用者も家族も喜んでくれると思う。</p>	<p>①来年度からは積極的な外出を計画しているので、感染症のリスクに対し、ご本人や家族に対ししっかり説明し同意を得る。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>①書面会議の際はメールやFAXなどで質問を受け付け、それに対して返答するという双方向性のある会議を実施していく。</p>	<p>11月には当事業所の都合により書面会議とした。資料を配布し、質問の受付と返答を行うことができた。</p>	<p>・地域の心配な方などの事例検討が行われていない。</p>	<p>①運営推進会議で、地域の心配な方がいないか確認していき、必要であればその方に対して支援できることがないか検討していく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>①事業所のBCP策定後、職員へ対して説明を行い、災害時の対応も確認する。 ②可能であれば事業所で行う避難訓練へ地域の消防団の方にも参加してもらい、日頃からの連携を図ることで災害発生時にも対応できる体制を構築する。</p>	<p>①令和6年度に向けてBCPを作成中であり、今年度は職員に対しての説明と災害時の対応の確認を行うことができなかった。 ②今年度は避難訓練時消防団の方に参加していただかなかった。消防団の方には敷地内内にある特別養護老人ホームの消防訓練を見学していただいた。</p>	<p>・BCPというのが、聞きなれないと思うので軽く説明すると、事業継続計画といい、災害や感染症が発生しても事業が行えるようにする計画となっています。 ・個別避難計画を作成していくとおもうので、それとBCPを組み合わせる必要がある。 ・コロナ過前には消防団の方はきていたが、今後はどうするのか。</p>	<p>①BCPについて、職員に対し研修や訓練を計画しているので、災害時など職員が対応できるように、しっかり研修、訓練を行っていき細かい点などしっかり煮詰めていく。 ②今後は消防訓練時には消防団にも参加してもらえよう依頼する。</p>